

工芸展示 「鎌倉と青磁」

常盤山文庫名品展 2015 特集：鎌倉禅林の墨蹟と頂相
平成 27 年 5 月 22 日（金） - 6 月 28 日（日） 鎌倉国宝館

《常盤山文庫名品展》では、毎回絵画と工芸の展覧をしていますが、今年工芸は「鎌倉と青磁」をテーマとしています。鎌倉は青磁研究の宝庫です。それは、中国で南宋から元にかけて焼かれた青磁について、まず寺に伝世品が多いこと、そして遺跡発掘という大量の出土をみることに、加えて『仏日庵公物目録』という円覚寺仏日庵の什宝目録に記録があることなど、伝世品・出土品・文献と研究材料が三拍子そろっているのです。常盤山文庫はこの三つを組み合わせながら、鎌倉において青磁がどのように使われていたのかを考えてゆきたいと思います。
(常盤山文庫・佐藤サアラ)

◆伝世品と出土品

鎌倉の遺跡出土品はこれまでたびたび紹介されてきましたが、作品と並べてみてあらためて感じることがありました。円覚寺の香炉（No. 2）を代表に、香炉といえば袴腰香炉が有名ですが、鎌倉の寺の伝世品・出土品を見渡してみると、筒形香炉が大半で袴腰香炉は少ないようです。

今回あらたな発見があったのは、常盤山文庫所蔵の菊花形杯（No. 5、下図）が、光明寺・極楽寺（No. 11 の内、下図）・海蔵寺（No. 11 の内、下図）の遺跡から出土していたことです。香炉や花瓶、酒会壺（No. 11 の内、次頁図）や

盤などの出土は知られていましたが、これまで杯の出土は認識されていませんでした。杯が出土する地域は現在寺がありますが、当時から寺であったのかどうか、気になるところです。

また、俗に酒会壺と呼ばれ酒を貯蔵する器であったとされる蓋付の壺は、遺跡からは骨蔵器として出土しているものもあります（No. 10）。杯や酒会壺、いったいどのような人々が、どのような場で使ったのか、興味は尽きません。



▲海蔵寺出土（No. 11 の内）

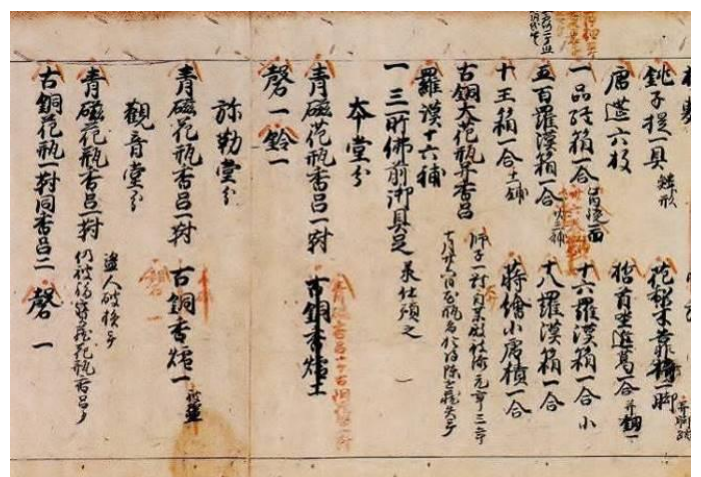
▲常盤山文庫の菊花形杯（No. 5、口径 9.0cm）

▲極楽寺出土（No. 11 の内）▲常盤山文庫（No. 5）

◆文献

円覚寺の塔頭仏日庵に伝わる什宝目録『仏日庵公物目録』は青磁の記事が満載です。仏日庵には中国の絵画や器物が数多く伝わりますが、紛失や進物など時代の流れの中で出入がありました。この目録は、元応 2 年（1320）に存在した旧目録を、貞治 2 年（1363）の時点で現物照会して作成しなおしたのとして知られます。寺のどこに、どのような青磁が置かれていたか、随所に見られる青磁の記載から、14 世紀半ばの寺における青磁の在り方を知りうる貴重な資料です。こうした文献を手がかりに、伝世品と照らし合わせながら鎌倉の青磁について考えることを、今後の課題の一つにしてゆきたいと思っています。

また、青磁のみならず様々な漆器の記述もあり、漆器コレクションも持つ常盤山文庫の関心は深まります。



▲『仏日庵公物目録』（No. 12）部分 円覚寺

常盤山文庫名品展 2015 工芸関連展示リスト

◎：国指定重要文化財 △：鎌倉市指定文化財



- 1 青磁鳳凰耳花生 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 常盤山文庫
 ◎2 青磁袴腰香炉 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 円覚寺
 3 青磁袴腰香炉 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 常盤山文庫



- 4 青磁蓮弁文鉢 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 常盤山文庫
 5 青磁菊花形杯 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 常盤山文庫
 6 青磁杯 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 常盤山文庫



- 7 青磁貼花文大花瓶 龍泉窯 中国・元時代 14世紀 建長寺
 8 青磁算木文筒形香炉 龍泉窯 材木座浄妙寺裏遺跡出土 中国・元時代 14世紀 鎌倉市教育委員会
 9 青磁貼花文香炉 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 常盤山文庫
 △10 青磁鎬文酒会壺 龍泉窯 太平尼寺跡出土 中国・元時代 14世紀 別願寺



- ▲酒会壺片各種 (No.11 の内) 今小路西遺跡出土 元時代・14世紀
 11 鎌倉市内出土青磁陶片 一括 中国・南宋～元時代 13-14世紀 鎌倉市教育委員会
 ◎12 仏日庵公物目録 1巻 南北朝時代 貞治2年(1363) 円覚寺

【協力：鎌倉国宝館】